様式（1）-①

都市再生整備計画

三河安城マチナカ協創地区
（みかわあんじょうマチナカきょうそうちく）

愛知県　安城市
（あいち　あんじょう）

令和３年２月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	□
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォーカブル推進事業	■

目標及び計画期間

様式（1）-②

都道府県名	愛知県	市町村名	安城市	地区名	三河安城マチナカ協創地区	面積	57.3 ha

計画期間	令和 3 年度 ～ 令和 7 年度	交付期間	令和 3 年度 ～ 令和 7 年度

目標

(つかう) パブリックスペースの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動との連携（協創）による「心地よくまちをつかい続けられる」しくみの形成。
(つくる) ミクストスペースの活用をきっかけとした、ステークホルダーとの連携（協創）による「心地よくまちをつかい続けられる」空間の形成。
(集まる) マチナカプレイスメイキングの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動とステークホルダーとの連携による「居心地よく滞在できる」マチナカの形成。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

【まちの成り立ち】本市の三河安城駅周辺は、昭和63年の新幹線駅三河安城駅の開業を契機に、土地区画整理事業により誕生／成長した新しいまちである。
【まちの当初設定ビジョン】安城市の副都心として、そして西三河の玄関口“新三河文化の創造”拠点として、「まち」と「ひと」はともに育ってきた。
【まちの成長】新幹線駅の開業や土地区画整理事業の施行に加え、三河安城駅周辺まちづくり指導要綱や地区計画の併用によるまちづくりにより、街区の約88%の敷地に建物が立地し、計画的かつ段階的な居住・都市機能が誘導されている。
【まち・ひとの成長】居住・都市機能の段階的な立地により、居住者は安定的に増加（開業前の約4倍、計画人口の約1.3倍（8,060人／2015年国調、当初1,928人、計画6,251人））している。また、近年では次世代自動車の研究開発企業が現在進行形で集積しつつあるなど、昼夜を問わず多くの居住者・就労者が滞在するまちとなっている。
【ひと（活動）の成長】これまでのマチナカでの人流は、居住／就労空間への往来が主であったが、令和2年創設の公共空間を活用した社会実験制度（マチナカプレイスメイキング）を契機に、まちをつかう民間活動も行われるようになるなど、少しずつであるがまちをつかう取組が始まっている。

課題

【都市施設の陳腐化】まちびらきから30年以上経過し、鉄道駅連絡通路の雨漏りや歩道のインターロッキングブロック、公園内公共空間の劣化だけでなく、昨今の民間活動に見合った機能（電源、給排水等）がマチナカに不足するなど、都市施設の陳腐化が始まっている。
【活動するしくみ】公共空間が区域の約46%を占めるにも関わらず、公共空間を使ったイベントなどで定期的に活用するしくみがないため、区域内の活動者が滞在できる公共空間となっていない。
【滞在ニーズと都市機能のギャップ】人が集まって居心地よく滞在できる都市機能（カフェ・店舗など）が少なく、本地域で滞在する人々がいない。
【活動ニーズと都市機能のギャップ】公共空間／民間空間をつかった「まちをつかう」社会実験が継続的に行われているものの、活動者のニーズに応えられる都市機能となっておらず、活動内容に限界が生じている。

将来ビジョン（中長期）

★三河安城駅周辺における将来ビジョン
【総合計画】
・本区域を中心とする地域は、交通の要衝として、高品位なまちづくりにより都市機能の再編を図り、本市の商業・業務の中心にふさわしい魅力と活力にあふれた拠点形成を図るべき区域としている。
【第三次安城市都市計画マスタープラン（都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を内包するもの）】
・本区域は、マチナカ拠点区域（都市機能誘導区域）に位置付けられ、西三河を支える地域拠点（広域的な拠点）として、新幹線三河安城駅周辺を中心に居住・都市機能を高度に集積させていくべき地域としている。
★まちづくりにおける将来ビジョン
【総合計画】
・健幸都市推進プロジェクト（前期計画）で、まちづくりを進める上で、活動の主役となるヒトを育てるため、「きっかけづくり」、「しくみづくり」を掲げている。
【第三次安城市都市計画マスタープラン（都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を内包するもの）】
・「市民とともにつくり・つかう協創のまちづくり」を掲げ、みんなで力を合わせ、まちやまちのつかい方を創っていく「まちをつかい続けられる都市運営」を目指すこととしている。

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
（つかう）公共空間等を活用した、まちをつかう！プロジェクト数	回／年	区域内の公共空間等での、まちをつかう民間活動（社会実験含む。以下同様）の実施回数	まちづくりにつながるまちをつかう民間活動と連携した、心地よくまちをつかい続けられるしくみの浸透	5	R2	48	R7
（つくる）つかってつくる！リノベーションエリア	%	区域内の公共空間等の内、まちをつかう民間活動によってリノベーションした公共空間の割合	プレイヤーとステークホルダーが連携した、つかってつくる心地よくまちをつかい続けられる空間の創出	0	R2	17	R7
（集まる）まちをつかう！オーディエンス獲得数	人／年	区域内のまちをつかう民間活動時に収集する、活動で提供したサービスを受けた人数（イベントの参加者も含む）。	まちづくりにつながるまちをつかう民間活動やステークホルダーと連携した、区域内で居心地よく滞在するオーディエンスの獲得	290	R2	4,800	R7
（つかうの波及）まちをつかう！プレイヤー数	団体	マチナカプレイスメイキング制度等を活用して、まちをつかう民間活動を行う民間団体数。	まちづくりにつながるまちをつかう民間活動と連携した、心地よくまちをつかい続けられるしくみの浸透	4	R2	10	R7

整備方針等

様式（1）-③

計画区域の整備方針

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
【パブリックスペースの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動との連携（協創）による「心地よくまちをつかい続けられる」しくみの形成】 ・本地域で広く提供するパブリックスペース（公共空間）での活動を最大化すべく、社会実験の後方支援（目的の明確化、活動データ取得等のコーディネート）として滞在環境整備事業（調査）を実施する。また、社会実験によって必要性が明らかとなりうる「まちをつかう」上で必要な機能をパブリックスペースに実装するため、滞在環境整備事業（社会実験）、高質空間形成施設（緑化施設等）、公園事業（三河安城ツインパーク）を実施する。これらの取組により、民間まちづくり活動との連携（協創）が促進され、「心地よくまちをつかい続けられる」しくみが形成できるものと期待する。	【基幹事業】 滞在環境整備事業（社会実験）、滞在環境整備事業（調査）、高質空間形成施設（緑化施設等）、地域生活基盤施設（情報版）、公園事業 【関連事業】 三河安城駅周辺地区計画、三河安城駅周辺まちづくり指導要綱、安城市駐車場附置義務条例 三河安城パワーアップ再生プロジェクト、マチナカプレイスメイキング、まちを知るきっかけづくり事業、オープンデータ活用事業、3D都市モデル運用事業、つかう.meet運営、まちづくりにおける連携協力に関する協定制度、まちマスサポート事業
【ミクストスペースの活用をきっかけとした、ステークホルダーとの連携（協創）による「心地よくまちをつかい続けられる」空間の形成】 ・三河安城駅周辺まちづくり指導要綱で歩道と定めるミクストスペース（壁面後退用地）のあり方を検討すべく、社会実験の後方支援（活用の多様化等のコーディネート）として滞在環境整備事業（調査）を実施する。また、社会実験によって必要性が明らかとなりうる「まちをつかう」上で必要な機能をミクストスペースに実装するため、滞在環境整備事業（社会実験）、地域生活基盤施設（公開空地）、公園事業（三河安城ツインパーク）を実施する。これらの取組により、ステークホルダーとの連携（協創）による「心地よくまちをつかい続けられる」空間が形成できるものと期待する。	【基幹事業】 滞在環境整備事業（社会実験）、滞在環境整備事業（調査）、地域生活基盤施設（公開空地）、公園事業 【関連事業】 三河安城駅周辺地区計画、三河安城駅周辺まちづくり指導要綱、安城市駐車場附置義務条例 三河安城パワーアップ再生プロジェクト、マチナカプレイスメイキング、まちを知るきっかけづくり事業、オープンデータ活用事業、3D都市モデル運用事業、つかう.meet運営、まちづくりにおける連携協力に関する協定制度、まちマスサポート事業
【マチナカプレイスメイキングの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動とステークホルダーとの連携による「居心地よく滞在できる」マチナカの形成】 ・まちに滞在する人々が必要とするニーズ（社会課題）を発掘すべく、ターゲティング活動（社会実験）の後方支援として滞在環境整備事業（調査）を実施する。また、社会実験によって必要性が明らかとなりうる「まちをつかう」上で必要な機能をマチナカに実装するため、滞在環境整備事業（調査）、滞在環境整備事業（社会実験）、高質空間形成施設（緑化施設等）、地域生活基盤施設（情報版）、地域生活基盤施設（公開空地）、公園事業を実施する。これらの取組により、民間まちづくり活動とステークホルダーとの連携による「居心地よく滞在できる」マチナカが形成できるものと期待する。	【基幹事業】 滞在環境整備事業（社会実験）、滞在環境整備事業（調査）、高質空間形成施設（緑化施設等）、地域生活基盤施設（情報版）、地域生活基盤施設（公開空地）、公園事業 【関連事業】 三河安城駅周辺地区計画、三河安城駅周辺まちづくり指導要綱、安城市駐車場附置義務条例 三河安城パワーアップ再生プロジェクト、マチナカプレイスメイキング、まちを知るきっかけづくり事業、オープンデータ活用事業、3D都市モデル運用事業、つかう.meet運営、まちづくりにおける連携協力に関する協定制度、まちマスサポート事業

その他

【まちづくりの住民参加】
・令和2年6月、「マチナカプレイスメイキング事業」を創設し、仮説ある活動に対し、当区域内の公共空間を無償貸出するしくみ（1ストップ申請かつデータ支払）をつくり、まちをつかう取組の普及、民間まちづくり活動の発掘を行っている。
・現在、「三河安城商店街振興組合」、「株式会社カンドタカメ」、「NPOMieru-Da Project」、「三河安城まちかどネットワークlink」から公共空間を活用した社会課題解決の企画提案書を受け、4団体が社会実験を行っている。
・「三河安城商店街振興組合」、「株式会社カンドタカメ」が発起人となり上記4団体及び安城市有志で集まった「まちをつかう」知恵を出し合うプラットフォームとして、「つかう.meet」が結成されている。
・「つかう.meet」の定期開催以降、団体間のコラボレーション活動が企画され、本地域の公共空間において、公民及び民民連携が始まりつつある。
・ホテルグランドティアラ安城（株式会社レクスト）と「まちづくりにおける連携協力に関する協定書」を締結し、（都）駅前中央通り線の歩道隣接空間（奥行2m分）を社会実験用地として提供されている。
【その他】
・内閣府の「i-都市再生モデル調査」で選定され、まちの課題（データ）をGoogle Earthで見える化するしくみを構築（コンバーターアプリの開発）し、つかう.meetや区域内イベントでの活用など、まちづくりにおけるDX活用が始まっている。
・国土交通省の3D都市モデルに選定され、LOD2相当の3D都市モデルを作成し、まちづくりにおけるDX活用が始まっている。

【官民連携事業】
※都市再生整備計画区域内で、道路占有特例、河川敷地占有、歩行者経路協定、都市利便増進協定を活用する場合には記載する。
今後、民間まちづくり活動の進展により、道路占有特例の追加を検討する。

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項（まちなかウォーカブル推進事業）

様式（1）-④-3

交付対象事業費	406	交付限度額	203	国費率	0.5

（金額の単位は百万円）

基幹事業

事業 / 細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費	費用便益比 B／C
公園	三河安城ツインパーク	市	直接		R5	R7	R5	R7	60	60	60		60	
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設（公開空地）	（都）駅前中央通り線沿線壁面後退用地	民間	間接		R5	R7	R5	R7	45	45	30	15	30	
地域生活基盤施設（情報版）	（都）安城幸田線ほか	市	直接		R4	R5	R4	R5	30	30	30		30	
高質空間形成施設（緑化施設等）	中央駅前広場東暫定広場ほか	市	直接		R4	R7	R4	R7	57	57	57		57	
高質空間形成施設														
既存建造物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
街なみ環境整備事業														
滞在環境整備事業（社会実験）	三河安城マチナカ協創地区	市	直接		R3	R7	R3	R7	149	149	149		149	
滞在環境整備事業（調査）	三河安城マチナカ協創地区	市	直接		R3	R7	R3	R7	80	80	60		80	
合計									421	421	386	15	406	

…A

提案事業

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	（参考）事業期間 開始年度	（参考）事業期間 終了年度	交付期間内事業期間 開始年度	交付期間内事業期間 終了年度	（参考）全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
地域創造支援事業														
事業活用調査														
まちづくり活動推進事業														
合計										0	0	0	0	0

…B

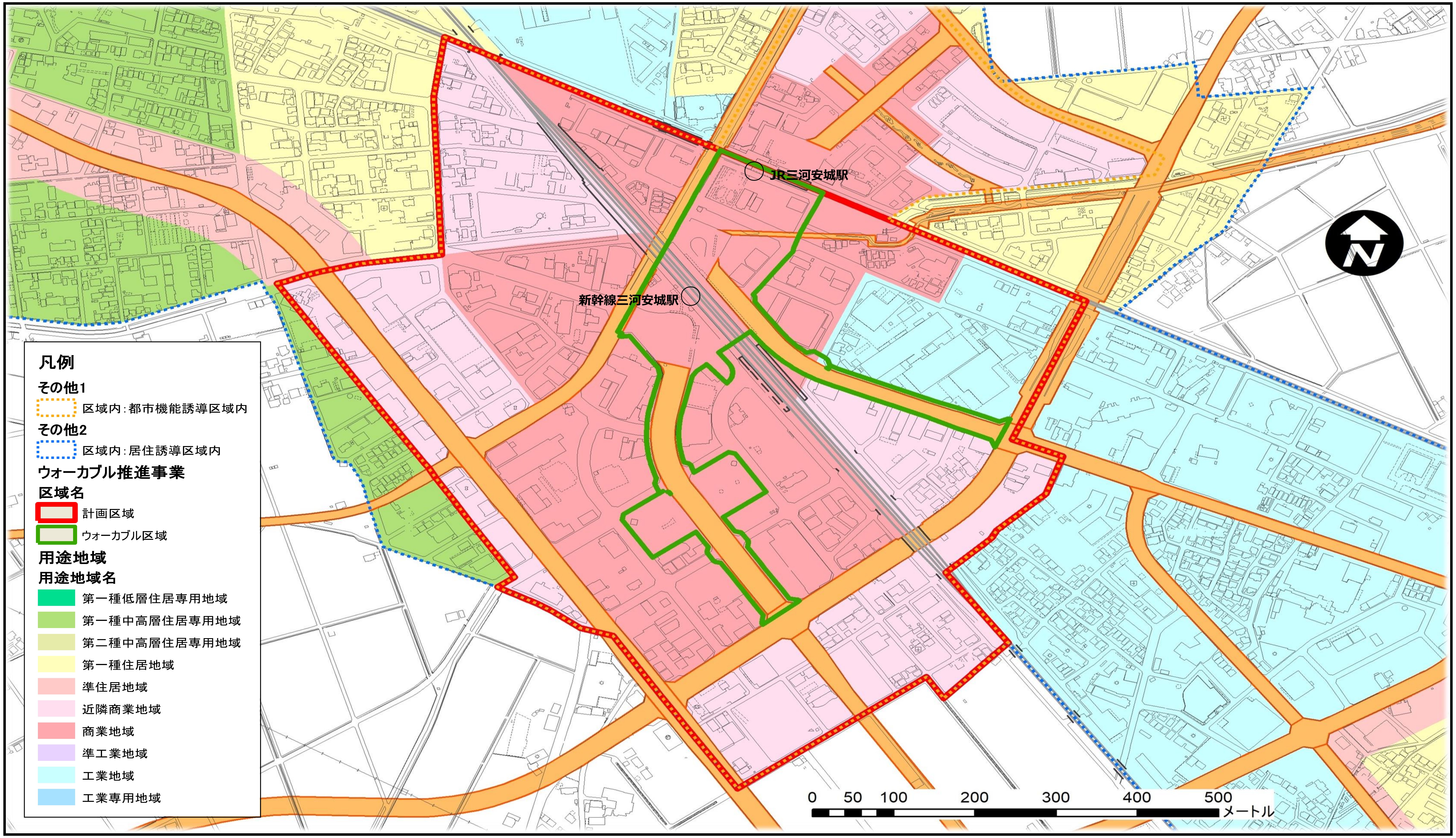
合計(A+B)	406

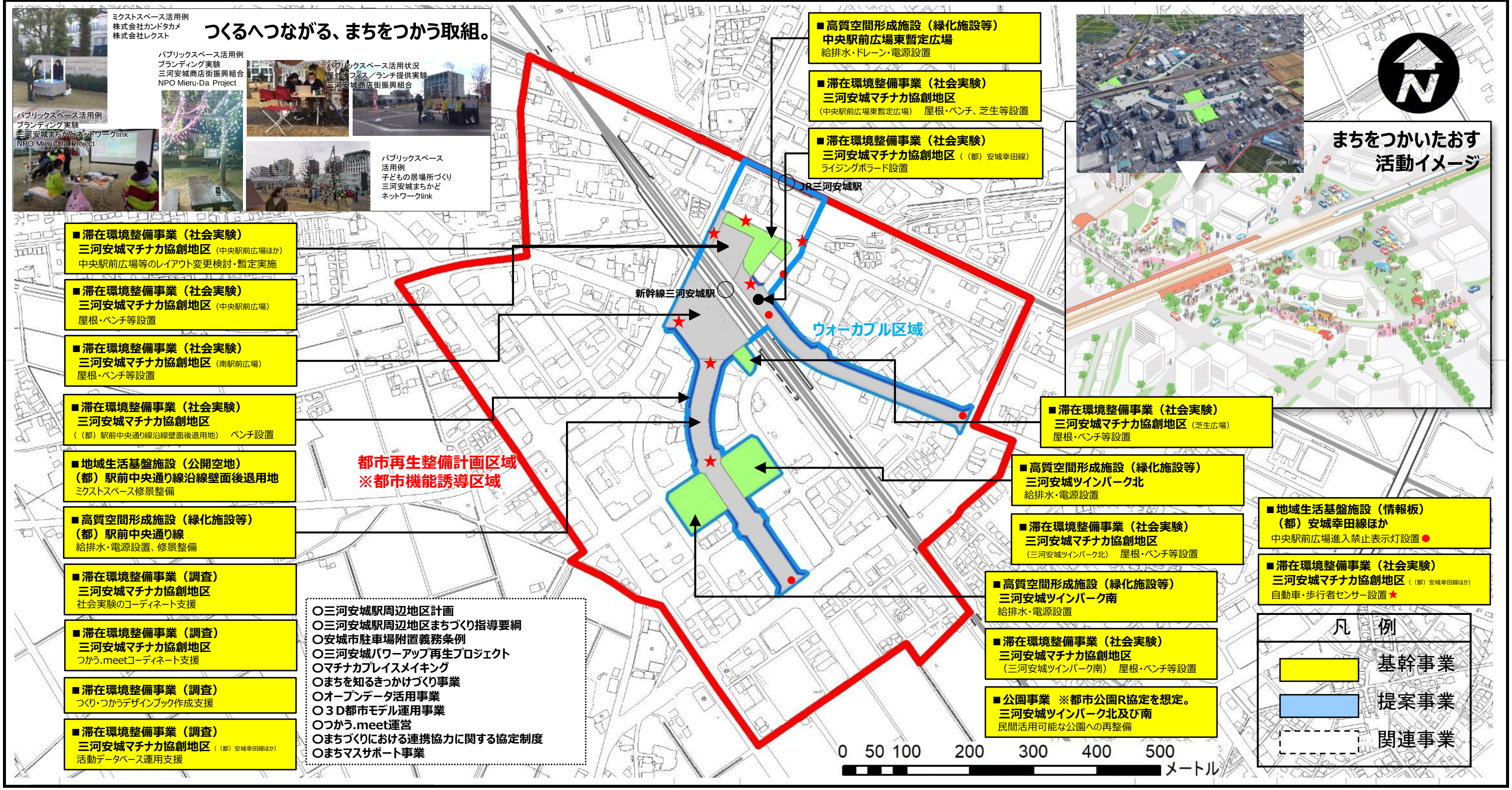
（参考）関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	（いずれかに○） 直轄	補助	地方単独	民間単独	事業期間 開始年度	事業期間 終了年度	全体事業費
三河安城駅周辺地区計画	三河安城駅周辺地区	民間	－	17.3ha			○	○	H4	－	0
三河安城駅周辺地区まちづくり指導要綱	三河安城駅周辺地区	民間／安城市	－	－			○	○	H4	－	0
安城市駐車場附置義務条例	JR三河安城駅周辺地区	民間／安城市	－	77.5ha					H5	－	0
三河安城パワーアップ再生プロジェクト	三河安城地域マチナカ拠点区域	民間／安城市	－	－			○		R2	－	0
マチナカプレイスメイキング	マチナカ拠点区域	民間／安城市	－	－			○	○	R2	－	0
まちを知るきっかけづくり事業	マチナカ拠点区域	民間／安城市	－	－			○	○	R1	－	0
オープンデータ活用事業	安城市域	安城市	－	－			○		R2	－	0
3D都市モデル運用事業	三河安城地域マチナカ拠点区域	安城市	国土交通省	－			○		R2	－	0
つかう.meet運営	三河安城地域マチナカ拠点区域	民間／安城市	－	－			○	○	R2	－	0
まちづくりにおける連携協力に関する協定制度	三河安城地域マチナカ拠点区域	民間／安城市	－	－			○	○	R2	－	0
まちマスサポート事業	マチナカ拠点区域	民間／安城市	－	－			○	○	R2	－	0
合計											0

様式(1)-⑥

三河安城マチナカ協創地区	面積	57.3 ha	区域	三河安城町の一部、三河安城本町の一部、三河安城南町の一部



三河安城マチナカ協創地区（愛知県安城市） 整備方針概要図（まちなかウォーカブル推進事業）

目標	・パブリックスペースの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動との連携（協創）による「心地よくまちをつかい続けられる」しくみの形成。 ・ミクストスペースの活用をきっかけとした、ステークホルダーとの連携（協創）による「心地よくまちをつかい続けられる」空間の形成。 ・マチナカプレイスメイキングの活用をきっかけとした、民間まちづくり活動とステークホルダーとの連携による「居心地よく滞在できる」マチナカの形成。	代表的な指標	公共空間等を活用した、まちをつかう！プロジェクト数 （回／年）	5	（R2年度）	→	48	（R7年度）
			つかってつくる！リノベーションエリア （％）	0	（R2年度）	→	17	（R7年度）
			まちをつかう！オーディエンス獲得数 （人／年）	290	（R2年度）	→	4800	（R7年度）
			まちをつかう！プレイヤー数 （団体）	4	（R2年度）	→	10	（R7年度）